

令和6年10月20日（日）  
掛川市文化・スポーツ振興課

### はじめに

- 高天神城は、小笠山から南東に張り出した標高132mの鶴籠山【かくおうさん】に築かれた山城
- 高天神城築城の3つの説

- ①：鎌倉時代の初め頃（土方次郎義政築城説）
- ②：室町時代の半ば頃（今川了俊築城説）
- ③：戦国時代初期頃（今川氏家臣の福島氏【くしまし】による築城説）

⇒①、②は軍記由来の説であり否定する研究者も多い。現在③の説が有力。

- 城を巡って甲斐（山梨県）の武田氏、三河（愛知県東部）の徳川氏による激しい争奪戦が繰り広げられた。
- 高天神城の一般的なイメージ  
⇒ 「高天神を制する者は遠江を制す」…、難攻不落の山城…  
⇒ 今回は城の構造を中心に説明します。

### 高天神城跡を見るポイント

#### ポイント① 「一城別野」と称される山城

- 中央に位置する井戸曲輪を挟んで、東峰【ひがしみね】、西峰【にしみね】に城郭が展開。  
⇒ 東峰…本丸、西の丸、御前曲輪【ごぜんくるわ】、的場曲輪【まとはくるわ】、三の丸  
⇒ 西峰…西の丸、二の丸、堂の尾曲輪【どうのおくるわ】、井樓曲輪【せいろくるわ】
- 東西の峰は、単独でも城として機能するように作られている。

#### ポイント② 東峰、西峰に残る城郭遺構の違い

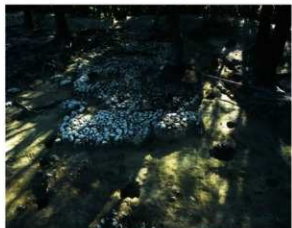
- 東峰は鶴籠山の地形を最大限に活用して築城（人工的に作られた構造物があまり見られない）。
- 西峰は土塁【どるい】、堀切【ほりきり】、横堀【よこぼり】等の遺構が良く残る。  
⇒ 西峰の方が斜面が緩い、（攻め手も登りやすい）  
⇒ 天正2年（1574）に高天神城を攻略した武田勝頼【たけだかつより】が地形の弱点を克服するために改修。

#### ポイント③ 西峰に残る城郭遺構（土塁、堀切、横堀の機能）

- 西峰は堀切、堅堀によって分断され、西側には100mにも及ぶ土塁、横堀によって守りを固めている。
- 西峰の曲輪と横堀の下では、現在でも10数メートルの高低差がある。
- 西側から来た攻め手を西峰へ上げないための工夫。（守り手は頂上を攻撃しやすい）

#### ポイント④ 「生活空間」としての高天神城

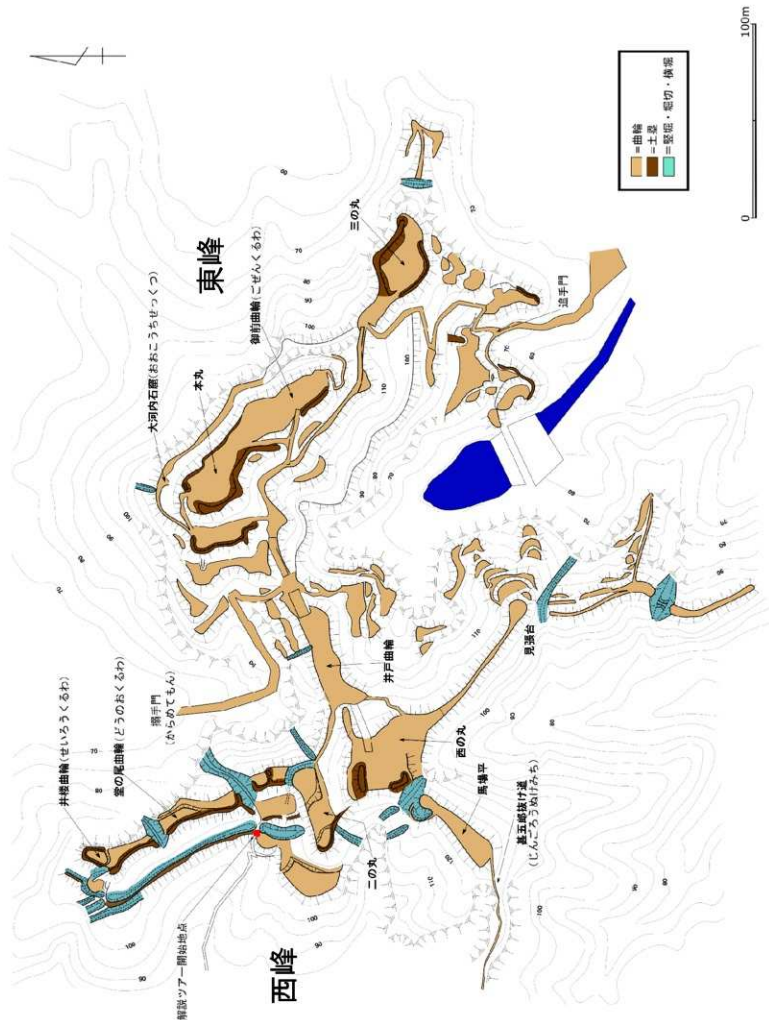
- 東峰の本丸、西峰の二の丸の発掘調査では、多数の建物跡とかわかけ、陶磁器類が出土している。  
⇒ 甕鉢【すりばち】、甕【かめ】の破片が多く出土（甕は水を貯めるために使用）。
- ⇒ 天目茶碗【てんもくちやわん】、茶入【ちやいす】の出土（城内に茶室が存在した可能性）。



本丸跡で見つかった礎石建物跡



堂の尾曲輪で見つかった天目茶碗と茶入



100m